

4週間という短い期間ではありましたが、新城市民病院での研修は非常に充実したものとなりました。研修期間中は初診外来を中心に、救急車対応や入院患者さんの病棟管理も経験させて頂きました。また、訪問リハビリや訪問看護、助産所、老健施設への見学、作手診療所での外来など院外での研修もさせて頂き、普段の急性期病院での診療ではあまり触れることのない、患者さん個々の背景の一旦を垣間見ることができ、大変勉強になりました。また、地域の中学校で熱中症の出前講義をする機会を頂き、準備をしていく中で正しく物事を伝えるという医師の職務の難しさも実感しました。

総合診療科の先生方は非常に勉強熱心で、チーム内で知識や技術を共有しようという雰囲気はとても居心地が良かったです。毎朝の勉強会や週に1回のUp to date勉強会では自分も発表をさせて頂き、調べた知識をまとめて伝えるという良い訓練になったと思います。EBMを大切にされている先生方の診療姿勢からは学ぶところが多くありました。

日々の診療で最も印象的だったのは、治療選択肢の提示の難しさでした。医学的に適応があるような医療行為も、患者さんの社会背景や家庭環境、人生観に至るまで、医学以外の要因によって、その方にとって最良の選択肢とは限らないといった場面に、毎日のように遭遇しました。指導医の先生と相談をしながら診療をするなかで、改めて臨床の難しさを感じました。何もかもがあるわけではない状況で、出来るだけの選択肢を挙げ、患者や家族、コメディカルとコミュニケーションをとりながら最良と思われる選択をする、一連の流れはどこにいても変わらず行うことだと思いますが、地域に近い病院ではより実感しやすかったです。患者背景の把握がより良い医療につながるという当たり前の様なことを、恥ずかしながら普段の名古屋での研修では忘れがちになってしまっており、重要性を改めて認識させて頂きました。

まず自分に出来ることは正しく選択肢を提示出来るということだと思いますので、その為の背景を含めた病歴聴取や身体診察を始めとする基本的な技術を改めて学び直す良い機会となりました。また、EBMの手法を学ぶ手がかりも頂きました。今後の自分の診療に生かされたいと思います。

新城市民病院のスタッフや外部の研修先施設の方々には大変お世話になりました。非常に良い機会を頂き、日々勉強になることばかりでした。この場を借りてお礼申し上げます。